



その3 働く

田畑を耕す　商品を売る　運ぶ

木を切る

計算をする　火を消す

洗濯をする





たくさん働くなかには

たくさんの笑顔がありました

昭和100年 1926——2026

展示資料

資料名	説明
馬鍬	代かき（水を張った田の土を砕き、平らにすること）に使いました。 牛や馬に縄でつなぎ、ひかせます。上部の棒を人間が持ち、金属の棒が地面に当たる角度を保ちました。
大鋸	木材を板にする時に使いました。 木口（木の繊維に対して直角に切った断面）に刃を入れ、繊維と平行に切ります。
木矢	木を切る時に使いました。 鋸で入れた切れ目に打ち込み、切り口を広げ、木を倒します。
背板	荷物を背負う時に使いました。 前面には縄の背負い紐があり、一部に布をまきつけています。 縄で荷物をくくりつけて、背負いました。
五つ珠そろばん	昭和初期まで使われていました。 使い方：「４＋３」の場合 準備 ： 下段の珠（一珠）はすべて下に下げておきます。 上段の珠（五珠）はすべて上に上げておきます。 計算 ： 一珠を４つ上げます。 足す「３」のうち「１」の分として一珠を１つ上げて「５」をつくります。 一珠が５つ上がっていることを確認して、五珠を１つ下げて、一珠５つを下げます。 足す「３」のうちの残り「２」の分として、一珠を２つ上げます。 五珠が１つ、一珠が２つ動いているので、答えは「７」とわかります。
足袋看板	店先に飾る看板です。 商品の「厚ゴム底足袋」とは地下足袋のことで、足袋の底にゴムが貼られています。
藁いずめ	藁や灰を敷き詰めた上に、布団に包んだ赤ちゃんを寝かせました。家の中だけでなく、農作業の時には田んぼのそばに置くこともありました。 大声で泣くことも、赤ちゃんの大事な仕事です。

銭箱	小銭を入れるための箱です。 上面の穴からお金を入れます。主にお店で使われました。
薬の看板	薬「振出機那機那湯」の看板です。 「機那機那」は南米原産のキナの樹皮で、解熱作用があります。「振出シ」と書かれていることから、薬を入れた小袋をお湯に浸して服用する薬だったことがわかります。
牛馬商看板	旧富田村蕨生で牛や馬を売っていた牛馬商の看板です。
薬箪笥	薬の行商人が使った、薬を入れる箪笥です。 箪笥の上部の穴に天秤棒を挿し込み、担いで運びました。側面には薬を宣伝する文章が彫られています。
相挽ガンド	切り倒した木を木目に対して直角に切断する時に使いました。 柄を持った二人が向かい合い、交互に引き合うようにして使います。
洗濯板・洗濯用たらい	洗濯のための道具です。 洗濯板をたらいの中へ立てかけ、石鹸をつけた洗濯物を板の溝にこすりつけて汚れを落としました。
火災警報看板	火災の注意喚起をするための看板です。 空気が乾燥している時や風の強い時など、火災の起きやすい時に掲げました。
尋常小学 算術	尋常小学校２年生が使った算数の教科書です。 昭和１１年（1936）に出版されました。当時の「尋常小学校２年生」は、現在の小学２年生の年齢です。 勉強も、子どもの大事な仕事です。